

下水道使用料の改定について

全員協議会 付属資料

下水道使用料の見直しにかかる
市民説明会資料

2026年8月7日

豊岡市上下水道部下水道課

下水道使用料の見直しについて ～豊岡市公営企業審議会答申～

市民説明会の日程

下水道事業の現状、使用料見直しの内容などについて、次の日程で説明会を開催します。

日 時		場 所
6月12日（金）	午後 7 時30分 ～ 9 時	出石庁舎 2 階 大会議室
6月16日（火）		城崎市民センター 2 階 大会議室
6月17日（水）		但東庁舎 2 階 大会議室
6月18日（木）		日高地区コミュニティセンター 多目的ホール
6月19日（金）		竹野庁舎 大会議室
6月22日（月）		市役所本庁舎 2 階 大会議室

【本日の内容】

1	今後の水道事業・下水道使用料のあり方	… 3
2	下水道事業の現状	… 6
3	下水道事業のこれまでの取り組み	… 17
4	下水道使用料見直しの検討	… 21
5	下水道使用料見直しの効果と影響	… 28
6	下水道事業のこれからの取り組み	… 32
7	参考資料	… 36
8	今後の予定	… 40

1 水道事業・下水道使用料のあり方

1 水道事業・下水道使用料のあり方

1 豊岡市公営企業審議会 答申の背景

■ 共通

【収入】

- 節水機器の普及や人口減少等による料金・使用料収入が減少傾向にあり、今後この傾向はさらに加速すると予測される。

【支出】

- 物価高騰等による施設の維持管理費が増大する見込みである。
- 管路の耐震化等、災害・減災に備えた整備の必要がある。
- 過去に集中的に整備した施設や管路の老朽化が進み、将来、一斉に更新時期を迎えるため改築事業費が増大する見込みである。

■ 水道料金

- 2023年に平均改定率17.3%の料金改定を行っている。
- 施設更新時にダウンサイジング等を進めている。

■ 下水道使用料

- 施設の維持管理費や資本費を現行の使用料体系では賄えなくなる見込みである。
- 将来の更新事業費に備える資産維持費を考慮する必要がある。

1 水道事業・下水道使用料のあり方

2 豊岡市公営企業審議会 答申の概要

■ 水道料金

- ・ 現行の水道料金を据え置く（2027年度～2031年度）

■ 下水道使用料

- ・ 現行の使用料水準では使用料算定期間（2027年度～2031年度）に必要な管理運営費（維持管理費・資本費）を賄えない見込み。



下水道使用料の見直しが必要

- ①2032年度以降に大きな改定率とならないように2036年度までの10年間を算定期間の基本とする。
- ②使用料対象経費は総括原価方式で算定する。総括原価には資産維持費を含めることとし、資産維持率は年0.5%とすること。
- ③使用料総収入に占める基本使用料収入の割合を30%程度とすること。

※30%程度…「下水道使用料算定の基本的な考え方」（公益社団法人 日本下水道協会）の算定例に基づく。

市は、この答申をいただき、下水道使用料の見直しについて検討することとします。



豊岡市

2 下水道事業の現状

2 下水道事業の現状

【参考】 日本の下水道が直面する課題

1 管路の老朽化・道路陥没

⇒ 年間約2,600件 下水道管に起因する道路陥没（2023年度）

昭和40～50年代整備の管が耐用年数を迎えている。硫化水素による内部腐食が深刻で空洞検知が困難である。

2 人材の深刻な不足

⇒ ▲43%減 下水道職員数（過去25年：4.7万人→2.7万人）

点検・維持管理を担う専門職員が約2万人減少している。必要な点検が追いつかず実態把握が後手になっている。

3 財源不足と更新の遅れ

⇒ 更新率0.65%/年 現在のペースでは全管路更新に130年以上

人口減少による使用料収入減と膨大な更新コストが財政を圧迫している。

4 DX活用と対策の方向性

⇒ 3年で実現 石破元首相が衛星・ドローン活用を指示（2025年2月）

国交省が「全国特別重点調査」を実施中。衛星データやAIを用いたリスク予測、バックアップ体制の整備など政策が転換しつつある。

2 下水道事業の現状

【参考】 埼玉県八潮市道路陥没事故を踏まえて

令和7年1月28日に発生した埼玉県八潮市道路陥没事故は、陥没箇所に埋設されていた管径4.75mの流域下水道管の破損に起因するものと考えられるため、全国的にも下水道管の老朽化が進んでいる現状を踏まえ、国土交通省は翌29日、全国の下水道管理者に対して今回の陥没事故と同様な箇所の緊急点検を要請しました。



豊岡市の対応

緊急点検の要請に対し、対象となる施設（流域下水道管理者が管理する晴天時1日最大処理量300,000m³/日以上の大規模な下水処理場に接続する管径2,000mm以上の下水道管路）はありませんが、市独自で巡視を行い、異常がないことを確認した。

今後も計画的な点検調査、適切な維持管理を継続して行う。

2 下水道事業の現状

1 下水道（污水）事業の概要（2025. 3. 31時点）

行政区域内人口	74,604 人
処理区域内人口	74,161 人
水洗化済人口	70,651 人
普及率	99.41 %
水洗化率	95.27 %
総処理水量	9,847,882 m ³
有収水量	8,382,579 m ³
無収水量（不明水）	1,465,303 m ³
有収率	85.12 %
使用料収入（税抜）	1,505,112,059 円
使用料単価 ※1	179.55 円
汚水処理原価 ※2	371.8 円
汚水管渠延長	970.7 km

◎有収水量

処理場で処理した水量のうち、使用料収入の対象となった水量

◎無収水量（不明水）

下水管の隙間等から下水道に入り込んだ雨水など、使用料収入の対象とならなかった水量

※1 使用料単価

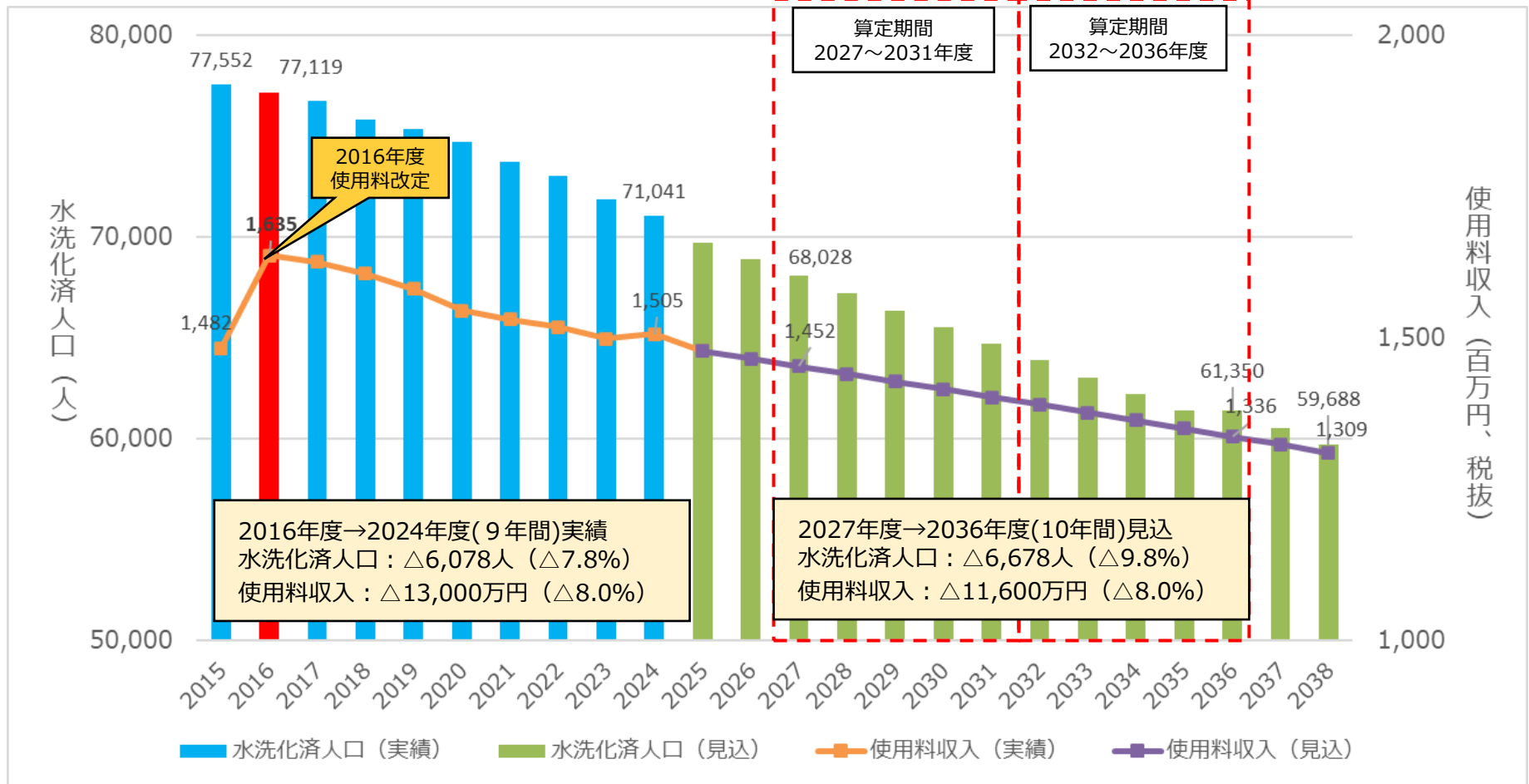
有収水量 1 m³当たりの
下水道使用料

※2 汚水処理原価

有収水量 1 m³当たりの
汚水処理に係る費用

2 下水道事業の現状

2 水洗化済人口と使用料収入の推移と見込（2015～2038年度）

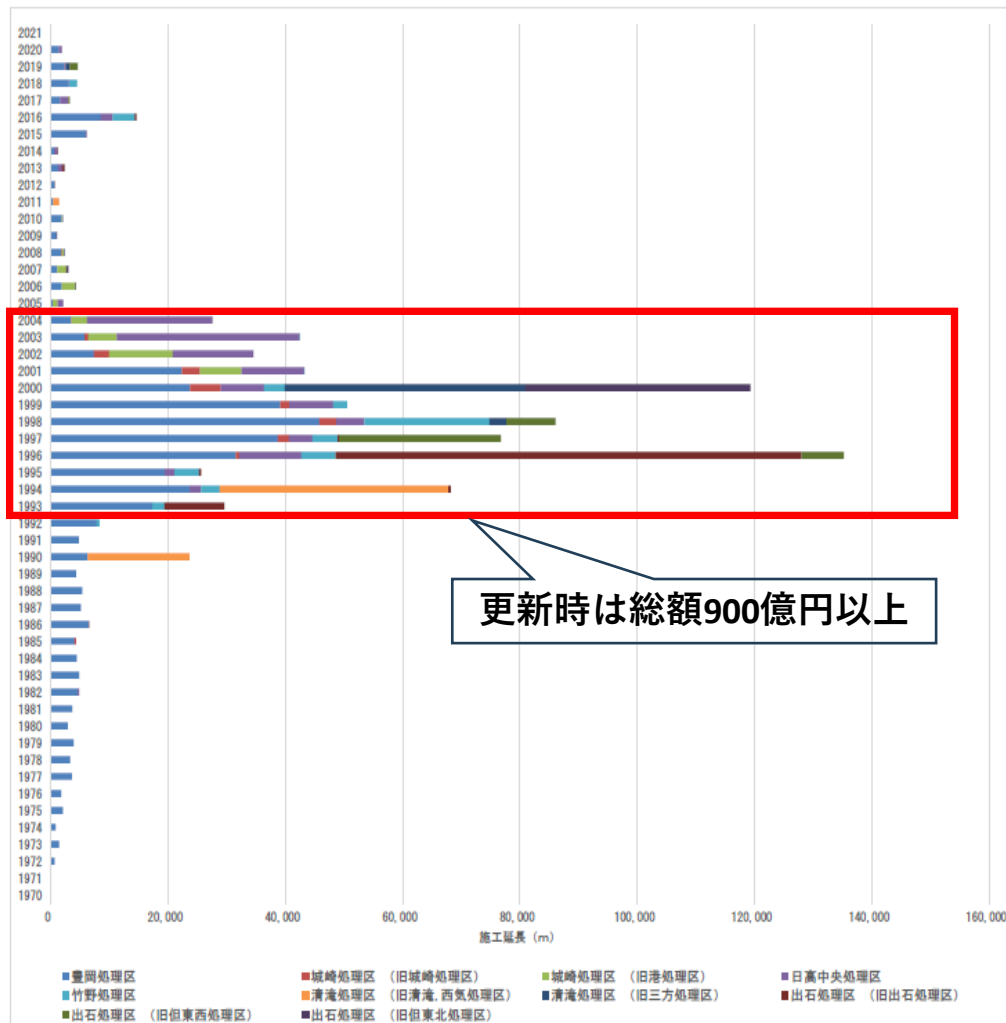


主に人口の減少に伴い、使用料収入も減少する。
今後もこの傾向はさらに加速すると見込まれる。

2 下水道事業の現状

3 污水管渠の更新費

・ 污水管渠 施工年度別延長



- ・ 污水管渠の管理延長 L=970.7km
- ・ 兵庫県が「生活排水99%大作戦」を1991(平成3)年度より展開
- ・ 豊岡市内の下水道管の布設年度も左図のとおり1993～2004年度に集中しており、**全体の約83%**を占める。
- ・ 管渠の耐用年数は50年であるため、老朽化率が今から18年後の2043年度には約11%、その後12年間で急激に上昇し、2054年度末には93%となる。
- ・ 赤枠部の建設費で約700億円であり、更新時の費用の総額は900億円以上になると想定される。

2 下水道事業の現状

4 管渠・処理場の修繕費（2020～2024年度）

※マンホールの劣化

汚水によりコンクリート構造物であるマンホールの壁が劣化する。



※異物混入による閉塞

異物が流されたことによりポンプが閉塞する。



【百万円（税込）】

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	合計
管 渠	32.6	26.0	44.6	54.4	48.9	206.5
処理場	58.1	55.4	74.5	94.2	74.1	356.3
引当金	0.8	3.2	4.3	3.7	12.2	24.2
合 計	91.5	84.6	123.4	152.3	135.2	587.0

2 下水道事業の現状

5 長期収支見通し

収益的収支（百万円、 税抜 ）		R05	R06	R07	R08	R09	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
項目 / 年度		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
収益的収支	収入（収益）	5,276	4,913	5,218	5,245	5,010	4,882	4,931	4,579	4,346	4,146	4,020	3,968	3,960	3,928	3,908	3,905
	下水道使用料	1,498	1,505	1,477	1,466	1,453	1,440	1,427	1,414	1,401	1,389	1,376	1,363	1,349	1,336	1,323	1,309
	一般会計繰入金	2,371	2,022	2,469	2,468	2,326	2,185	2,213	1,831	1,582	1,348	1,186	1,099	1,072	1,039	1,017	1,007
	長期前受金戻入	1,399	1,376	1,257	1,299	1,219	1,246	1,280	1,322	1,351	1,398	1,447	1,495	1,528	1,542	1,558	1,578
	その他	7	10	15	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
	支出（費用）	4,590	4,607	4,501	4,418	4,235	4,253	4,324	4,419	4,491	4,609	4,732	4,866	4,946	4,986	5,043	5,104
	維持管理費等	1,071	1,097	1,130	978	990	964	971	978	985	992	1,001	1,020	1,018	1,027	1,035	1,044
	うち、非現金支出分	53	65	7	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	減価償却費	3,155	3,111	2,988	3,075	2,909	2,972	3,034	3,117	3,175	3,268	3,362	3,453	3,517	3,534	3,565	3,601
	支払利息	365	398	383	365	336	317	319	324	331	348	369	392	410	426	442	460
	単年度損益	685	307	717	827	774	629	608	160	△ 146	△ 462	△ 712	△ 898	△ 986	△ 1,058	△ 1,134	△ 1,199
	累積損益（利益処分後）	0	0	684	628	480	226	217	105	△ 40	△ 503	△ 1,215	△ 2,113	△ 3,099	△ 4,157	△ 5,291	△ 6,490
資本的収支（百万円、 税込 ）																	
項目 / 年度		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
資本的収支	収入	2,639	3,238	4,399	3,612	2,987	2,777	3,056	2,575	3,030	2,912	2,974	2,548	2,334	2,403	2,502	2,596
	企業債	1,931	2,112	2,708	2,240	1,827	1,553	1,590	1,290	1,497	1,421	1,457	1,271	1,163	1,197	1,247	1,294
	一般会計繰入金等	2	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国庫補助金	697	1,085	1,691	1,372	1,159	1,224	1,465	1,285	1,532	1,491	1,517	1,276	1,170	1,205	1,255	1,302
	その他	9	17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	支出	5,043	5,844	6,997	6,185	5,667	5,532	5,824	5,105	5,265	4,778	4,571	3,978	3,708	3,709	3,757	3,821
	建設改良費	1,331	2,114	3,339	2,670	2,283	2,350	2,842	2,535	3,001	2,895	2,964	2,544	2,333	2,403	2,502	2,596
	企業債償還金	3,712	3,730	3,659	3,515	3,384	3,182	2,982	2,570	2,264	1,884	1,608	1,434	1,375	1,306	1,255	1,225
	収支過不足額	△ 2,404	△ 2,606	△ 2,598	△ 2,573	△ 2,680	△ 2,755	△ 2,768	△ 2,530	△ 2,235	△ 1,866	△ 1,597	△ 1,430	△ 1,374	△ 1,306	△ 1,255	△ 1,225
	補てん財源																
	使用額	2,404	2,606	2,598	2,573	2,680	2,755	2,768	2,530	2,235	1,866	1,597	1,430	1,374	1,306	1,255	1,225
	翌年度繰越額	1,790	1,356	1,358	1,511	1,402	1,110	833	377	△ 40	△ 366	△ 624	△ 873	△ 1,132	△ 1,390	△ 1,653	△ 1,932
企業債残高		39,391	37,781	36,837	35,566	34,013	32,388	30,998	29,719	28,953	28,490	28,339	28,177	27,965	27,856	27,848	27,917
現金預金残高		3,245	2,936	2,559	3,108	2,902	2,672	2,493	1,847	1,788	1,424	1,196	718	366	169	△ 30	△ 253

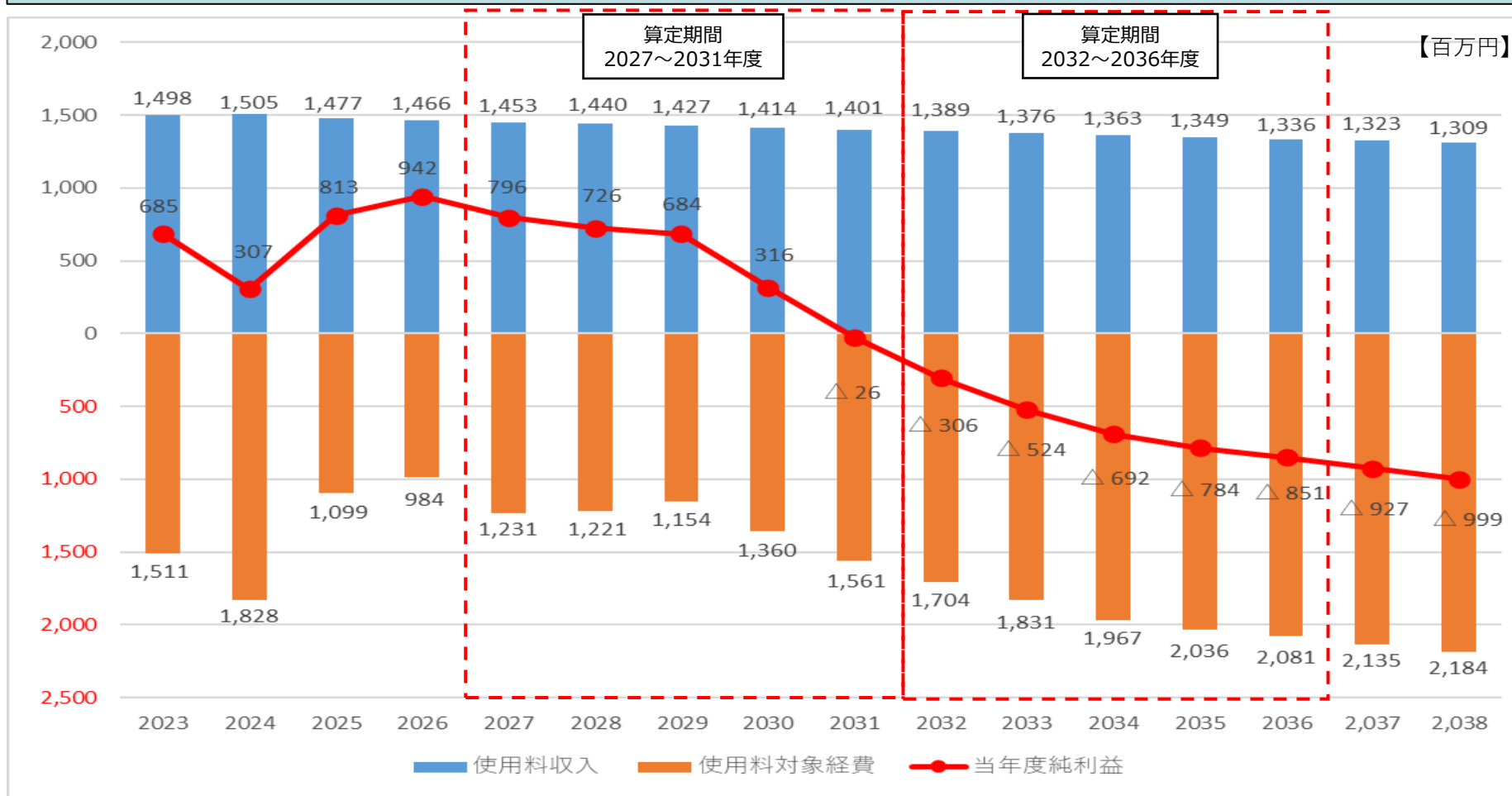
※端数処理の都合上、合計が一致していない場合がある。

2031年度以降、慢性的な赤字となり、補てん財源も不足が生じる。



2 下水道事業の現状

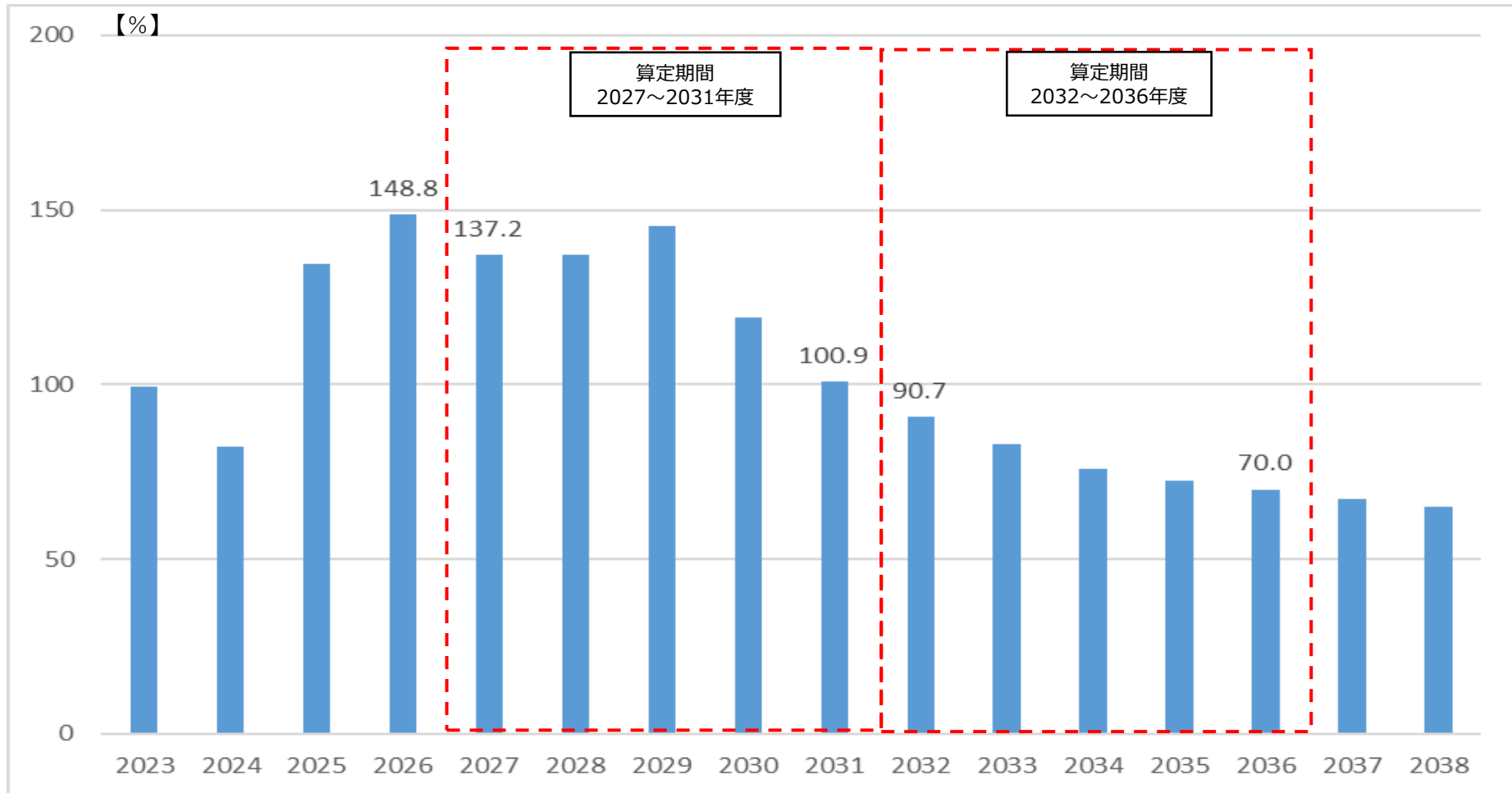
6 使用料収入と使用料算定経費の推移と見込（2023～2038年度）



下水道使用料収入は、人口減少等による使用量の減少により年々、減少する。
使用料算定経費は、物価高騰・支払利息の利率上昇等により年々、増加している。

2 下水道事業の現状

7 経費回収率の推移と見込（2023～2038年度）



経費回収率は収入減・支出増により、2032年度以降は100%未満となる見込み。



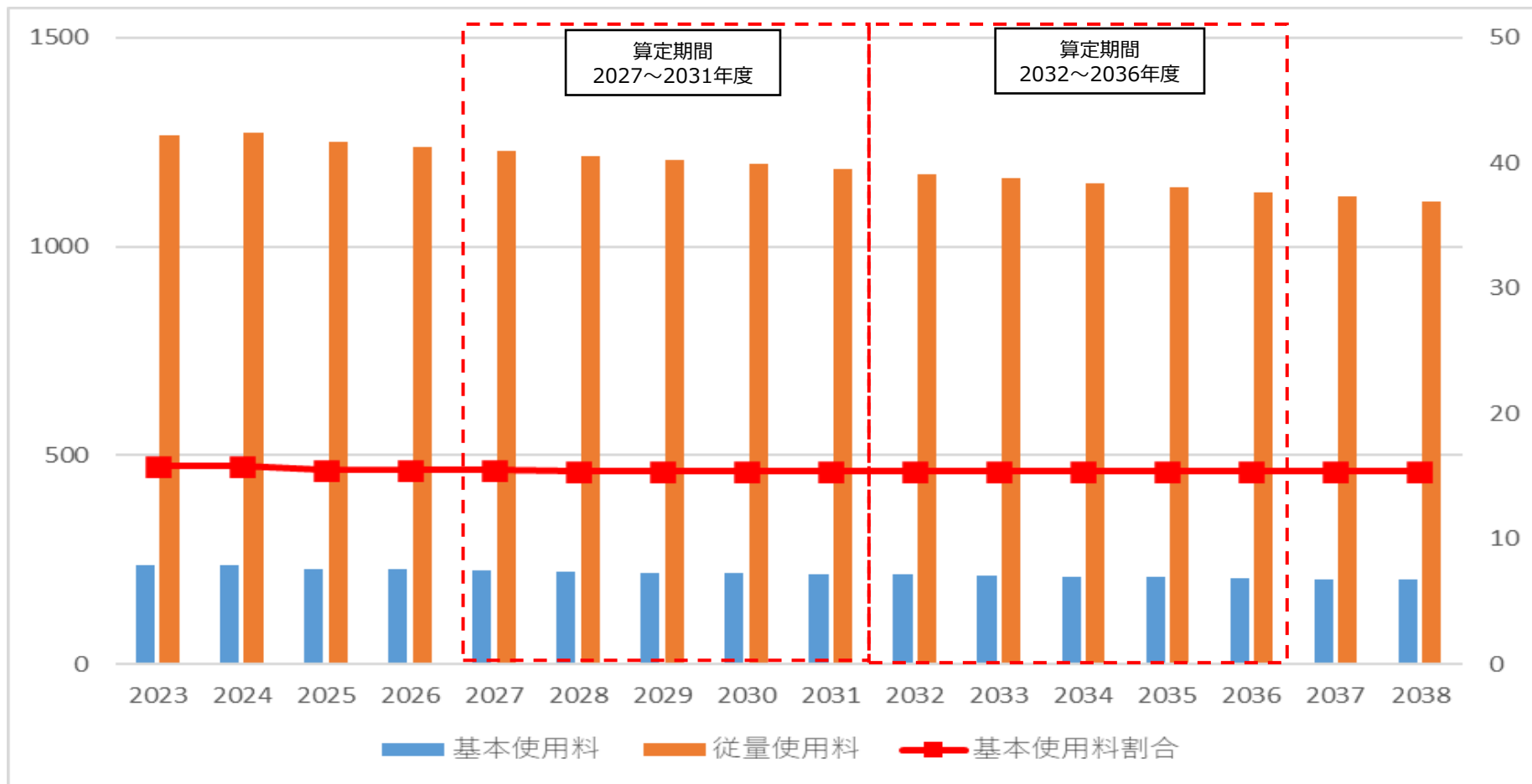
豊岡市

2 下水道事業の現状

8 基本使用料と従量使用料の推移と見込（2023～2038年度）

【百万円】

【%】



使用料総収入に占める基本使用料収入の割合は約15%である。使用水量に影響されやすい使用料体系となっている。

3 下水道事業のこれまでの取り組み

3 下水道事業のこれまでの取り組み

1 組織再編・下水道職員数の推移

年度	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)
職員数 (人)	65	61	53	36	30	27	22	19	19	18
組織再編等	合併 企業部 ・企業総務課 ・水道課 ・下水道課 ・企業分室 (支所に5分室)			企業分室を廃止 企業部 ・企業総務課 ・水道課 ・下水道課				企業総務課を廃止 上下水道部 ・水道課 ・下水道課		

年度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
職員数 (人)	17	17	18	18	18	17	17	18	18	18

年度	2025 (R7)	2026 (R8)
職員数 (人)	17	18

- ・ 2005 (H17) : 企業総務課、水道課、下水道課、企業分室 (支所に5分室)
- ・ 2008 (H20) : 企業分室を廃止し、企業総務課、水道課、下水道課の3課体制
- ・ 2012 (H24) : 企業総務課を廃止し、水道課、下水道課の2課体制

※ 職員数は、水道課を除いた数を計上。

3 下水道事業のこれまでの取り組み

3 削減効果

●統廃合事業による経費削減効果

(単位：百万円)

年 度	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)
効果額	30	30	30	40	40	80	128	156	159	201
累計効果額	30	60	90	130	170	250	378	534	693	894

年 度	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
効果額	232	232	244	245	326	326	438	438	438	438
累計効果額	1,126	1,358	1,602	1,847	2,173	2,499	2,937	3,375	3,813	4,251

※2024(R6)年度までは実績、2025(R7)年度からは見込み

※算定期間（2027～2031）の5ヵ年では合計20億7,800万円の削減を見込んでいる。

●下水汚泥の全量減量化による経費削減

市内の下水汚泥の全量を豊岡市浄化センターで消化処理し、汚泥量を25%削減する。

- ・消化ガスの増加 → 燃料費の減少
- ・汚泥の減量化 → 処分費の減少
- ・2018(H30)年度より事業開始

4 下水道使用料見直しの検討

4 下水道使用料見直しの検討

1 これまでの水道料金・下水道使用料の改定

豊岡市の水道料金・下水道使用料は、算定期間を5年間とし、5年ごとに適正な水準を検討している。

下水道使用料は2016年度に平均改定率11.3%の値上げを行った。

算定期間と過去の改定率

年度		2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
改定率	水道	19.8%					据置					新型 コロナ により 1年 先送り		17.3%			
	下水道	据置					11.3%						据置				

検討に当たっては、市民や有識者で構成される「豊岡市公営企業審議会」に諮問しています。今回は、2025年6月2日に水道料金・下水道使用料のあり方を諮問し、8回の審議を経て、2026年3月30日に答申を受けた。

4 下水道使用料見直しの検討

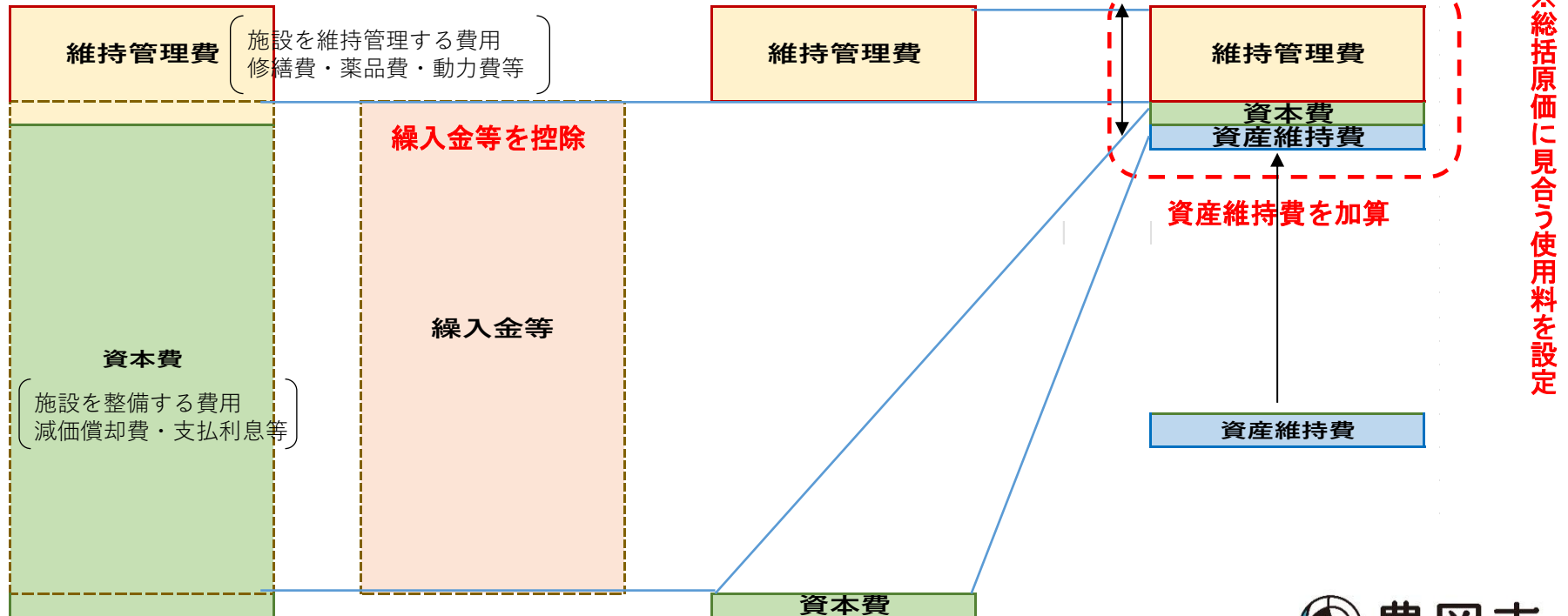
2 総括原価方式（使用料対象経費）

- ☛ 全ての費用に適正な報酬を加えた「総括原価」に見合う料金設定を行う算定方式。
- ☛ 全ての費用から繰入金等を差し引いた額に**資産維持費**を加えた額が総括原価となる。

※総括原価 = 維持管理費 + 資本費 + 資産維持費

【総括原価（使用料対象経費）の算定イメージ】

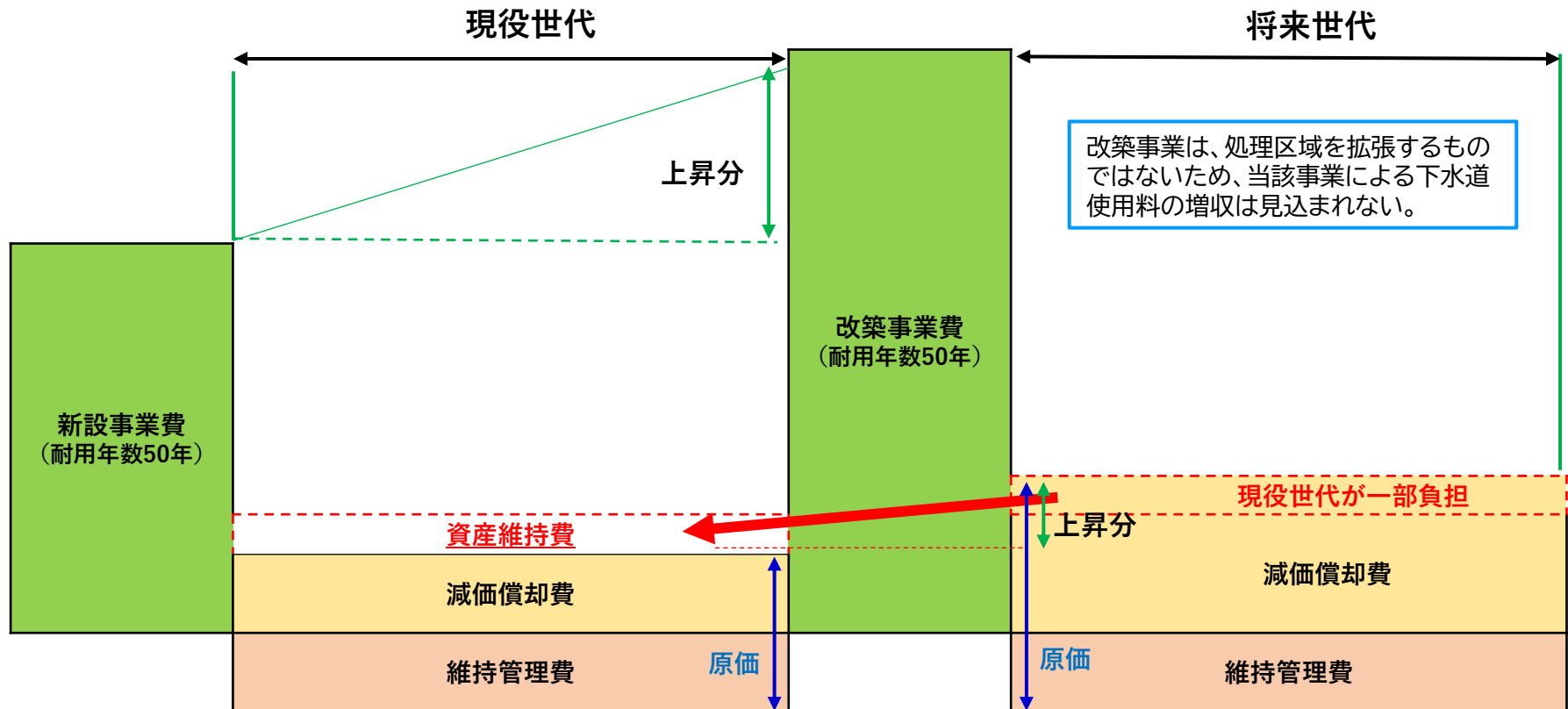
汚水費用



4 下水道使用料見直しの検討

3 資産維持費

- ☛ 資産維持費とは、将来の更新需要が新設当時と比較し、施工環境の悪化、高機能化（耐震化等）等により増大することが見込まれる場合、使用者負担の期間的公平等を確保する観点から、実体資本を維持し、サービスを継続していくために必要な費用（増大分に係るもの）として、企業債の支払利息も含めて、適正かつ効率的、効果的な中長期の改築（更新）計画に基づいて算定するものである。



4 下水道使用料見直しの検討

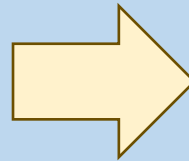
4 使用料見直し案の考え方（基本使用料）

- ① 汚水処理の費用のうち、約85%が水量の多少に関係のない固定費である。
- ② この固定費をすべて基本使用料で賄うのが理想とされていますが、多額になり非現実的である。
- ③ 使用水量が今後も減少する中、将来の経営の安定化を目指し、使用水量に影響されない基本使用料のみの見直しとする。
- ④ 使用料総収入に占める基本使用料収入の割合を30%程度とする。

※30%程度…「下水道使用料算定の基本的な考え方」（公益社団法人 日本下水道協会）の算定例に基づく。

一か月あたり（税込）

現 行
6 6 0 円



改定案
1,452円

4 下水道使用料見直しの検討

5 使用料見直し案の考え方（全体）

- 2027（令和9）年4月1日から
- 使用水量に関係なく安定した収入を目指すため
 - ① 使用料総収入に占める基本使用料収入の割合の見直し。
基本使用料(税込)：月額660円 ⇒ 1,452円程度（15.4% ⇒ 29.2%）
 - ② 基本使用料のみの見直し。
 - ③ 従量使用料の据え置き（結果として累進度は下がる）。
（1.85倍 ⇒ 1.23倍）

例えば、一般家庭（20m³/月、税込）では、一か月あたり
現行：3,410円 ⇒ 4,202円程度 792円の増額

4 下水道使用料見直しの検討

6 下水道使用料金表（現行との比較）

基本使用料（1月につき）		従量使用料（1 m ³ につき）			
一般・ 公衆浴場	城崎町湯島財産 区営浴場	区 分	一 般	公衆浴場	城崎町湯島 財産区営浴場
660円 ↓ 1,452円	0円 ↓ 1,452円	10m ³ まで	88.0円	44円	183.7円
		10m ³ を超え30m ³ まで	187.0円		
		30m ³ を超え50m ³ まで	214.5円		
		50m ³ を超え100m ³ まで	242.0円		
		100m ³ を超え500m ³ まで	269.5円		
		500m ³ を超える分	286円		

※消費税及び地方消費税（10%）を含む。

※公衆浴場は現在、1件のみで閉業中です。

5 下水道使用料見直しの効果と影響

5 下水道使用料改定の効果と影響

1 見直し後の下水道使用料における今後の収支見通し

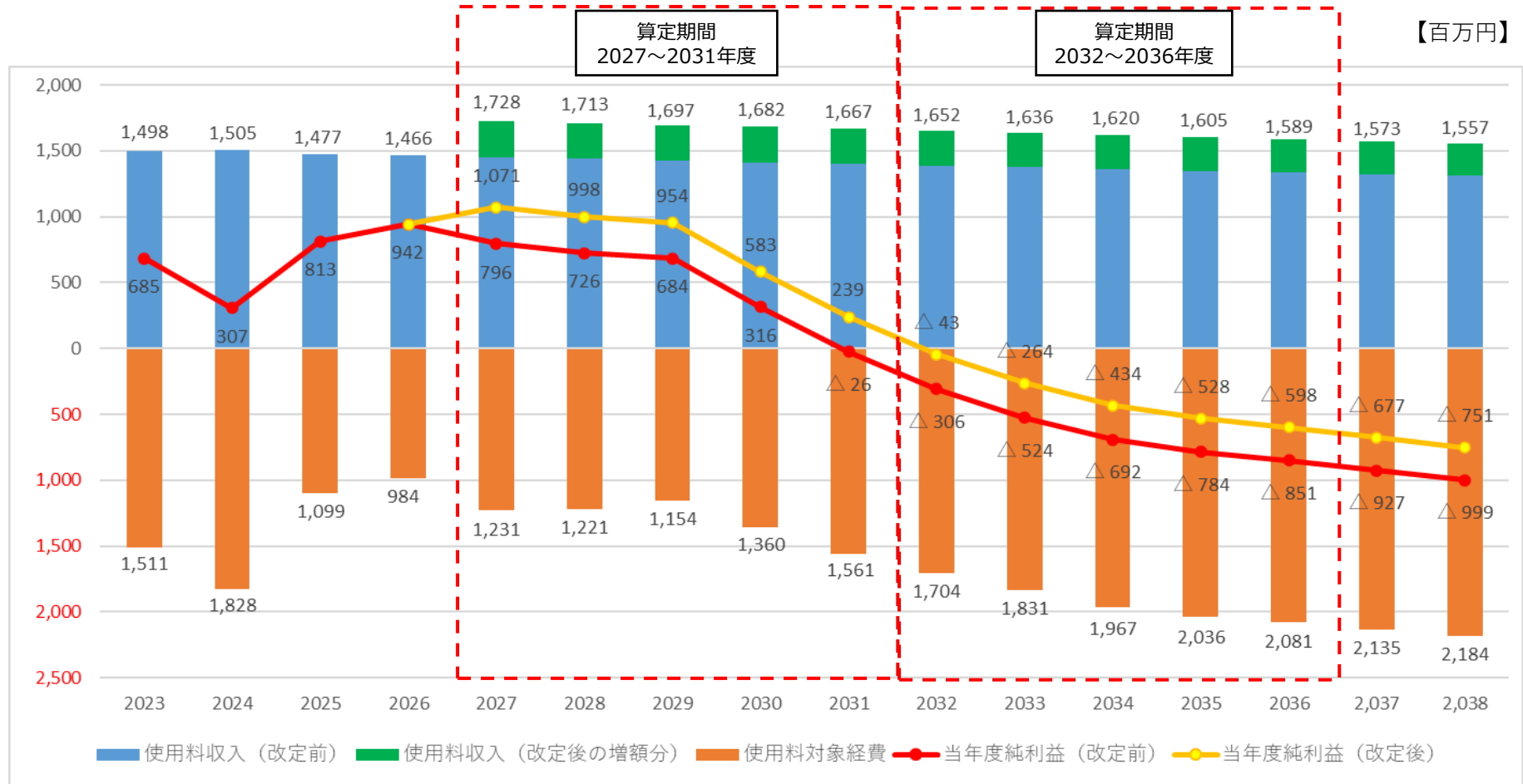
収益的収支（百万円、 税抜 ）		決算 R05	決算 R06	R07	R08	R09	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
項目 / 年度		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
収益的収支	収入（収益）	5,276	4,913	5,145	5,167	5,263	5,208	5,234	4,960	4,688	4,523	4,426	4,389	4,376	4,347	4,325	4,313
	下水道使用料	1,498	1,505	1,477	1,466	1,728	1,713	1,697	1,682	1,667	1,652	1,636	1,620	1,605	1,589	1,573	1,557
	一般会計繰入金	2,371	2,022	2,469	2,468	2,327	2,260	2,267	1,966	1,681	1,484	1,353	1,285	1,254	1,227	1,204	1,189
	長期前受金戻入	1,399	1,376	1,184	1,222	1,198	1,224	1,258	1,301	1,329	1,376	1,425	1,473	1,506	1,520	1,536	1,556
	その他	7	10	15	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
	支出（費用）	4,590	4,607	4,332	4,225	4,192	4,210	4,280	4,376	4,448	4,566	4,690	4,824	4,904	4,945	5,002	5,064
	維持管理費等	1,071	1,097	1,133	981	994	967	974	981	988	996	1,005	1,024	1,022	1,030	1,039	1,048
	うち、非現金支出分	53	65	7	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	減価償却費	3,155	3,111	2,816	2,879	2,870	2,932	2,995	3,078	3,136	3,229	3,323	3,414	3,478	3,495	3,527	3,562
	支払利息	365	398	383	365	329	310	312	317	324	341	362	386	404	419	436	454
	単年度損益	685	307	813	942	1,071	998	954	583	239	△ 43	△ 264	△ 434	△ 528	△ 598	△ 677	△ 751
	累積損益（利益処分後）	0	0	490	532	664	761	1,084	1,381	1,620	1,577	1,314	879	351	△ 247	△ 924	△ 1,675
資本的収支（百万円、 税込 ）																	
項目 / 年度		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
資本的収支	収入	2,639	3,238	4,401	2,473	2,988	2,778	3,057	2,577	3,031	2,914	2,976	2,549	2,335	2,404	2,504	2,597
	企業債	1,931	2,112	2,710	1,735	1,828	1,554	1,591	1,291	1,499	1,422	1,458	1,273	1,164	1,198	1,248	1,295
	一般会計繰入金等	2	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国庫補助金	697	1,085	1,691	737	1,159	1,224	1,465	1,285	1,532	1,491	1,517	1,276	1,170	1,205	1,255	1,302
	その他	9	17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	支出	5,043	5,844	6,999	5,074	5,668	5,533	5,825	5,103	5,264	4,767	4,560	3,967	3,696	3,697	3,745	3,809
	建設改良費	1,331	2,114	3,340	1,559	2,284	2,352	2,843	2,536	3,002	2,896	2,965	2,546	2,334	2,404	2,503	2,597
	企業債償還金	3,712	3,730	3,659	3,515	3,384	3,182	2,982	2,567	2,262	1,872	1,595	1,422	1,362	1,293	1,242	1,212
	収支過不足額	△ 2,404	△ 2,606	△ 2,598	△ 2,601	△ 2,680	△ 2,755	△ 2,768	△ 2,527	△ 2,232	△ 1,854	△ 1,584	△ 1,418	△ 1,361	△ 1,293	△ 1,242	△ 1,212
	補てん財源																
補てん財源																	
使用額		2,404	2,606	2,598	2,601	2,680	2,755	2,768	2,527	2,232	1,854	1,584	1,418	1,361	1,293	1,242	1,212
翌年度繰越額		1,790	1,356	1,355	1,432	1,603	1,662	1,715	1,667	1,620	1,709	1,895	2,105	2,298	2,496	2,687	2,853
企業債残高		39,391	37,781	36,838	35,063	33,511	31,886	30,498	29,223	28,461	28,012	27,875	27,726	27,528	27,433	27,439	27,522
現金預金残高		3,245	2,936	2,559	2,475	3,103	3,225	3,375	3,138	3,450	3,500	3,716	3,697	3,798	4,057	4,312	4,534

※端数処理の都合上、合計が一致していない場合がある。

2032年度以降、慢性的な単年度損失となるが、補てん財源不足は解消される。

5 下水道使用料見直しの効果と影響

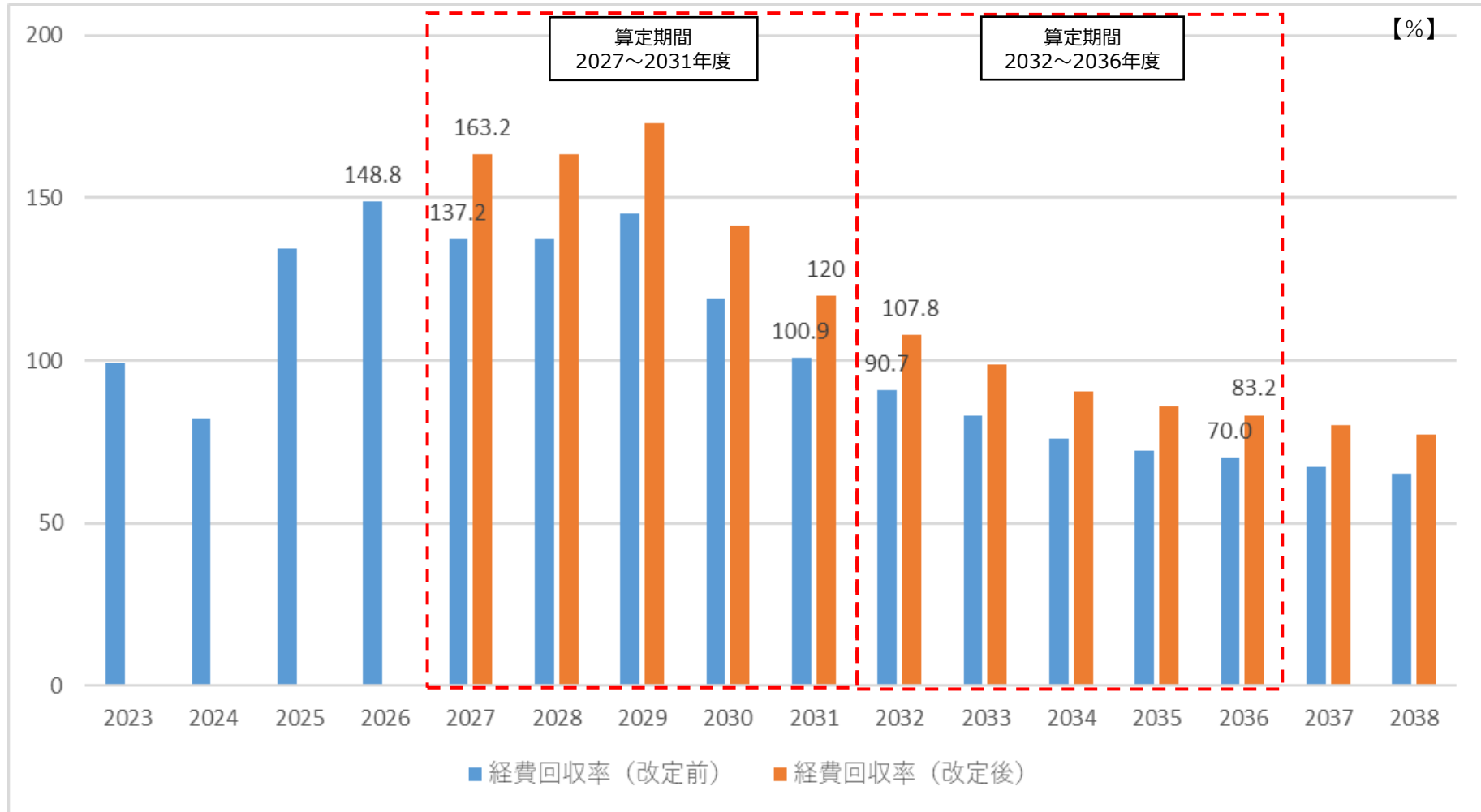
2 使用料収入と使用料算定経費の推移と見込（2023～2038年度）



下水道使用料収入は、人口減少等による使用量の減少により年々、減少する。
使用料算定経費は、物価高騰・支払利息の利率上昇等により年々、増加している。

5 下水道使用料見直しの効果と影響

3 経費回収率の推移と見込（2023～2038年度）



見直し後であっても、経費回収率は収入減・支出増により、2033年度以降は100%未満となる見込み。



豊岡市

6 下水道事業におけるこれからの取り組み

6 下水道事業におけるこれからの取り組み

1 今後の下水道事業経営

今後も次のような取り組みにより、効率的で安定した経営に努めます。

①水洗化率の向上

⇒ 100%の接続率を目指し、未接続解消への努力

②施設の廃止・統廃合・ダウンサイジング

⇒ ・施設、設備の長寿命化による更新費用の抑制
・浄化槽への転換等、将来の水需要減少を踏まえた適切な投資

③民間活力の活用・D Xの導入検討

⇒ ・技術者不足への対応
・効率的かつ持続可能な事業運営の実現可能性のための経営改革

④適切な一般会計負担

⇒ 公費負担としての一般会計繰出基準を適切に反映

⑤国・県への補助要望

⇒ 更新費用への財政的支援の継続要望

徹底した事務事業の効率化等の経営改革を図り、経営の健全化に努めます。

6 下水道事業におけるこれからの取り組み

2 各事業の事業費

(単位：百万円)

建設改良費	種別		施設名	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
				2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
	汚水	統廃合事業	但東北、港等	522	472	220	199	12									
		長寿命化事業		2,040	2,032	1,927	1,978	2,358	2,141	2,671	2,236	1,227	2,302	2,210	2,265	2,215	2,220
		公共・特環	処理場	2,040	2,027	1,912	1,898	2,265	2,042	2,609	2,100	1,170	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
			マンホールポンプ場														
			管路														
		農集	処理場		5	15	80	93	81	52	76	47	42		5	15	20
		漁集	処理場						18	10	60	10	60	10	60		
	耐震化事業			0	45	15	52	201	170	109	247	723	67	7	22	75	100
合計			2,562	2,549	2,162	2,229	2,571	2,311	2,780	2,483	1,950	2,369	2,217	2,287	2,290	2,320	

※雨水事業は除く

2027-2031合計：12,053

2032-2036合計：11,306

2027-2036合計：23,359

◎主な固定資産の耐用年数 ※償却限度額を帳簿価格の95%に設定

- ☛ 管渠（構築物）：50年
- ☛ 処理場・マンホールポンプ場（機械及び装置）：20年



6 下水道事業におけるこれからの取り組み

3 各事業（具体例） ※各種改築工事

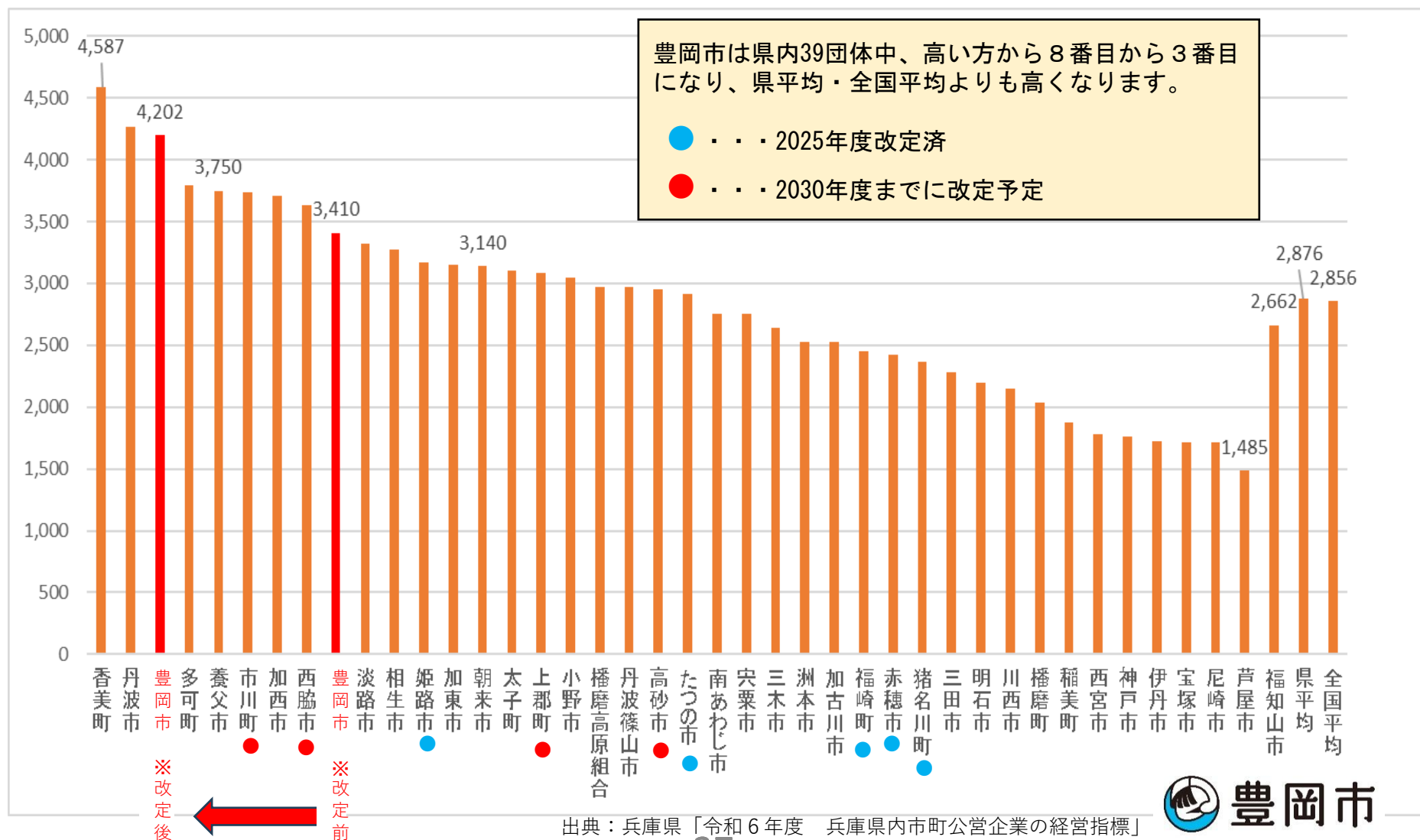


7 参考資料

7 参考資料（兵庫県内他市町との比較）

※2026. 3. 31時点

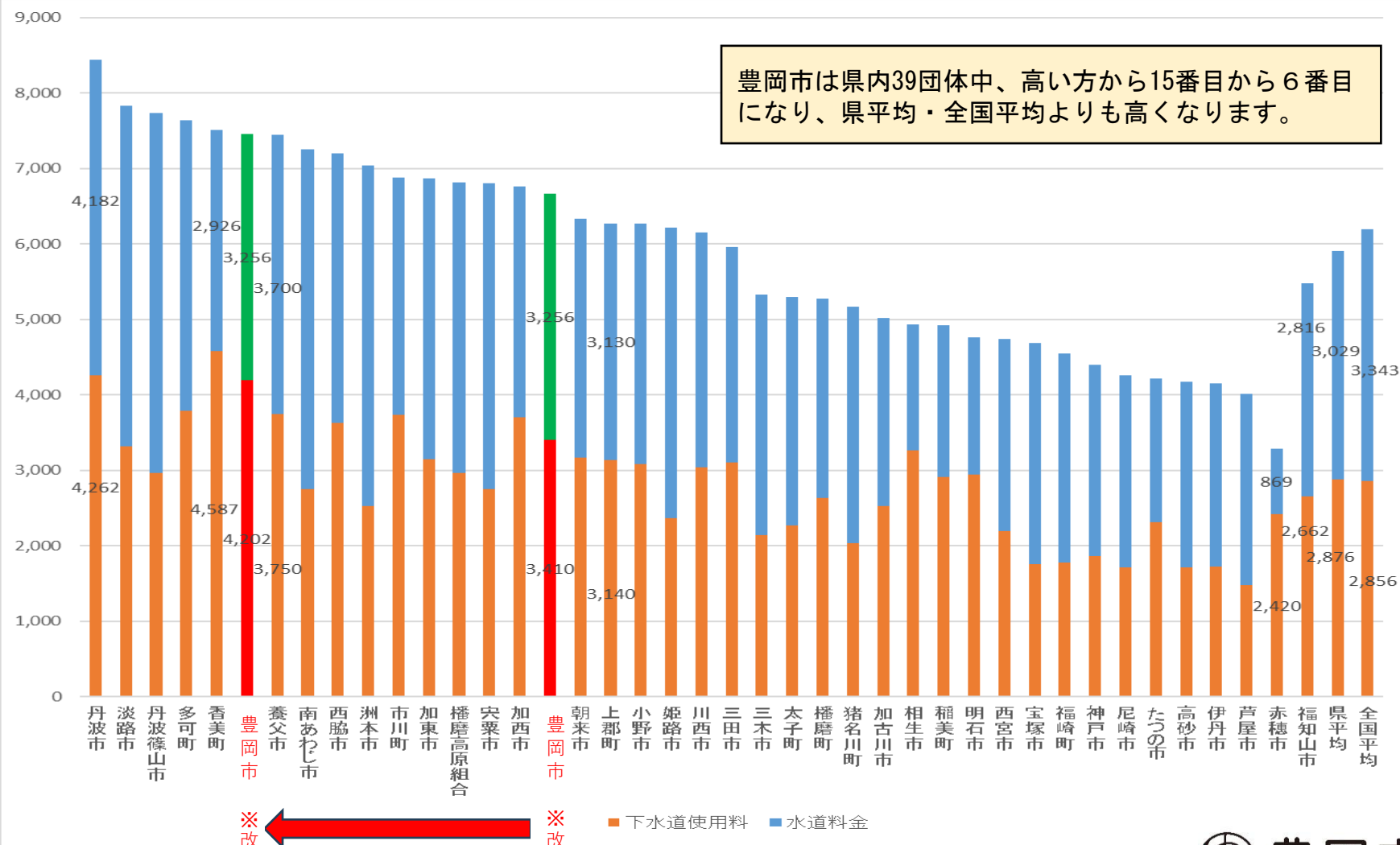
1 兵庫県内の下水道使用料（使用水量20m³の場合（1か月あたり、税込））



7 参考資料（兵庫県内他市町との比較）

※2026. 3. 31時点

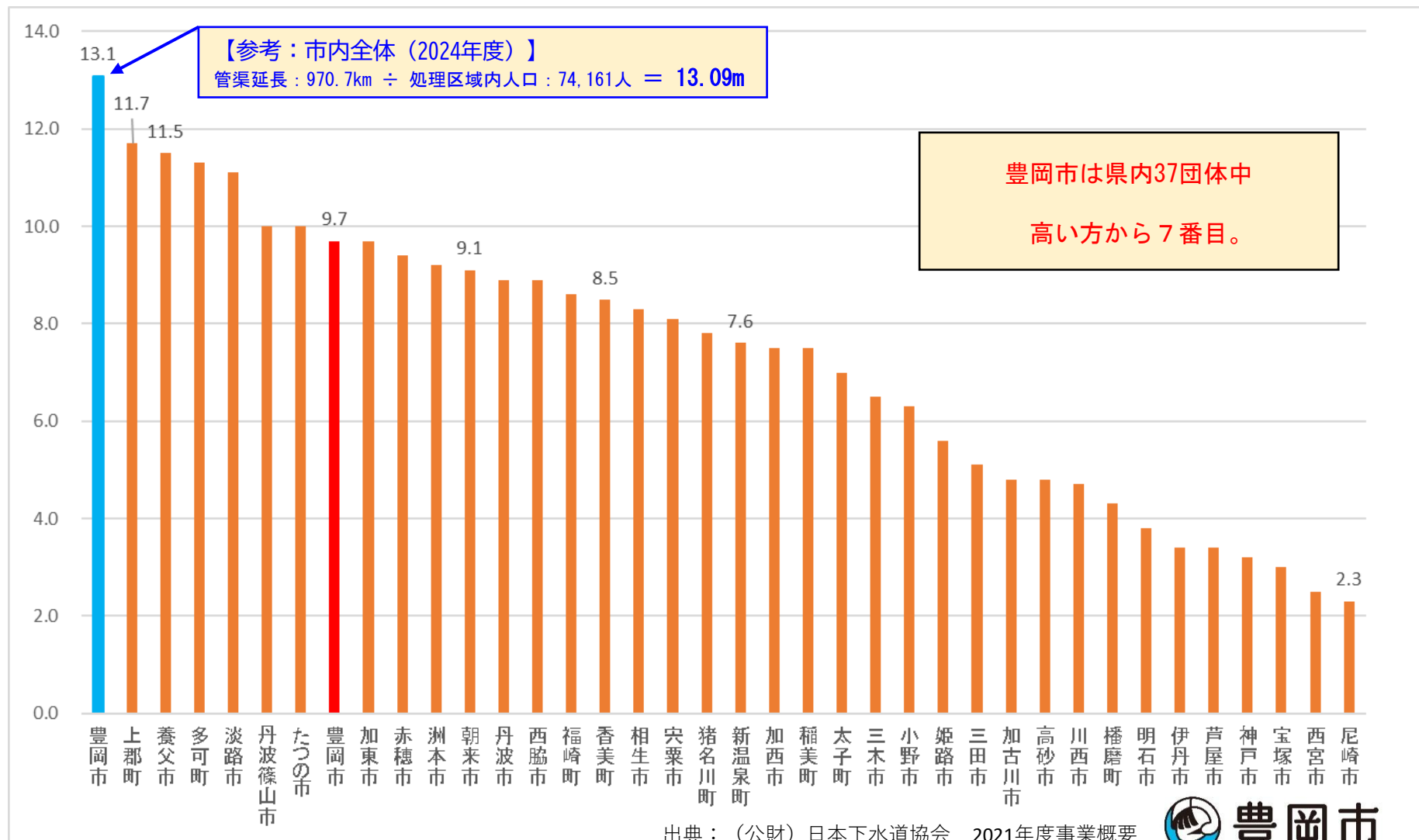
2 兵庫県内の水道料金＋下水道使用料（使用水量20m³の場合（1か月あたり、税込））



出典：兵庫県「令和6年度 兵庫県内市町公営企業の経営指標」

7 参考資料（兵庫県内他市町との比較）

3 兵庫県内の公共下水道における処理人口一人当たりの管渠延長（m/人）



8 今後の予定

8 今後の予定

1 シビックとよおかを実施します

「シビックとよおか」は、スマホやパソコンから、市の課題や施策について意見を投稿したり、ほかの人の意見を読んだり、対話したりできるオンラインの場です。

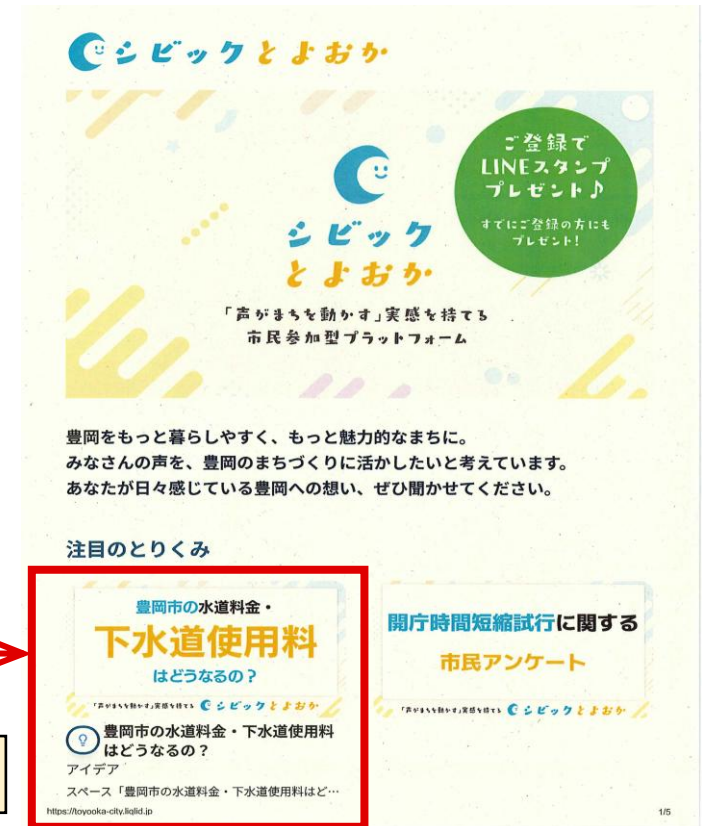
だれでも、いつでも場所や時間にとらわれず、自分の考えを届けることができます。

- 募集期間
5月1日（金）から 7月3日（金）まで
- 参加方法
 - ①QRコードを読み取る
 - ②アカウントを作成
 - ③テーマを選んで投稿

「豊岡市の水道料金・下水道使用料はどうなるの？」

※ここをクリック

あなたのアイデアをぜひ聞かせてください！



8 今後の予定

2 パブリックコメントを実施します

- 募集期間
6月12日（金）から 7月3日（金）（必着）まで
- 意見の提出方法
持参、郵送、メール、FAX
 - 1 様式は任意ですが、必ず氏名・住所・連絡先・年齢を記載してください。
 - 2 資料および意見様式は、豊岡市ホームページ上で掲載するほか、下水道課、総務課、各振興局地域振興課窓口にも備え付けています。
 - 3 提出された意見を取りまとめ、これに対する考えを、後日、市ホームページで公表します（個別には回答いたしません）。
- ※ 郵送の場合は、下水道課へ
〒668-0061 豊岡市上佐野1788番地の3
豊岡市役所上下水道部下水道課 宛
FAX : 0796-22-1803 メール : gesuidou@city.toyooka.lg.jp

